



やり抜く力（グリット）

校長 五十嵐 圭一

16日間の短い夏休みが終わり、2学期がスタートしました。この夏は、最高気温が35度以上の猛暑日を何回も記録するだけでなく、40度を超える地域も出るなど、まさに猛暑でした。2学期も、コロナウイルス感染症防止対策、熱中症対策など生徒の健康管理を第一に考え、教育活動を進めてまいりますので、引き続き、保護者、地域の皆様には、ご理解、ご協力をお願い申し上げます。



校舎の窓に掲示されたメッセージ

さて、8月17日の始業式は、コロナウイルス感染症防止のため、放送により行いました。2学期のスタートに際し、以下のような話をしましたので紹介させていただきます。

2週間前の1学期終業式で、「いつ収束するかわからないコロナ対応ですが、このような時こそ、今できることを着実にやり、皆で力をあわせ頑張っていきましょう。」という話をしました。

コロナウイルスの感染状況については、夏休み中の2週間をみても、依然としていい方向に向かっているとはいいがたく、今後どうなるのだろうか、と不安を感じる人もいないかと思えます。「先行き不透明な時代」と言ってもいいかもしれません。このような時代の対処方法を、アメリカのある心理学者が研究していますので紹介したいと思います。

その心理学者によれば、先行き不透明な時代に、ビジネスや学問、スポーツなどで成功している人に共通する特徴は、「やり抜く力」をもっていることだそうです。「やり抜く力」とは、失敗を恐れず物事に粘り強く取り組み、どんなに長い時間がかかっても最後までやり抜くことのできる力です。成功の秘訣は、このような「やり抜く力」を身に付けることだということです。この力は、英語でグリット (G r i t) と言います。

では、やり抜く力 (グリット) を身に付けるにはどうしたらいいのでしょうか。それは、決して難しいことではなく、目の前にあることに本気で取り組むことなのだそうです。学校生活でいえば、毎日の授業や、学校行事、委員会活動、部活動などに、本気で取り組むことと言えるでしょう。

これまでの桜木中の生徒の皆さんの姿を見ていると、これらのことはすでにできていることです。皆さんには、ぜひ、今の自分のやり方に自信をもち、引き続き取り組んでほしいと思います。そして、やり抜く力 (グリット) を身に付け、将来につなげてほしいと思います。